

令和6年度

教職課程

自己点検・評価報告書

中京大学

令和7年4月

中京大学 教職課程認定学部・学科等（免許校種・教科）一覧

1. 学部学科の課程

学部	学科	認定を受けている免許状の種類
文学部	日本文化学科	中一種（国語） 高一種（国語） 高一種（書道）
	言語表現学科	中一種（国語） 高一種（国語） 高一種（書道）
	歴史文化学科	中一種（社会） 高一種（地理歴史）
国際学部	言語文化学科	中一種（英語） 高一種（英語）
心理学部	心理学科	中一種（社会） 高一種（公民）
法学部	法律学科	中一種（社会） 高一種（公民）
経済学部	経済学科	中一種（社会） 高一種（公民） 高一種（地理歴史） 高一種（商業）
経営学部	経営学科	中一種（社会） 高一種（公民） 高一種（地理歴史） 高一種（商業）
総合政策学部	総合政策学科	中一種（社会） 高一種（公民） 高一種（地理歴史）
現代社会学部	現代社会学科	中一種（社会） 高一種（公民）
工学部	電気電子工学科	高一種（工業）
スポーツ科学部	スポーツ教育学科	中一種（保健体育） 高一種（保健体育）
	競技スポーツ科学科	中一種（保健体育） 高一種（保健体育）

	スポーツ健康科学科	中一種（保健体育） 高一種（保健体育）
	トレーナー学科	中一種（保健体育） 高一種（保健体育）
	スポーツマネジメント学科	中一種（保健体育） 高一種（保健体育）

2. 大学院研究科専攻の課程

大学院（修士）	専攻	認定を受けている免許状の種類
人文社会科学研究科 （2024年4月開設）	日本語日本文学専攻	中専免（国語） 高専免（国語） 高専免（書道）
	言語文化専攻	中専免（英語） 高専免（英語）
	歴史文化専攻	中専免（社会） 高専免（地理歴史）
心理学研究科	実験・応用心理学専攻	高専免（公民）
	臨床・発達心理学専攻	高専免（公民）
スポーツ科学研究科	スポーツ科学専攻	中専免（保健体育） 高専免（保健体育）
文学研究科 （募集停止）	日本文学・日本語文化専攻	中専免（国語） 高専免（国語） 高専免（書道）
	歴史文化専攻	中専免（社会） 高専免（地理歴史）
国際英語学研究科 （募集停止）	国際英語学専攻	中専免（英語） 高専免（英語）
	英米文化学専攻	中専免（英語） 高専免（英語）
社会学研究科 （募集停止）	社会学専攻	中専免（社会） 高専免（公民）
法学研究科 （募集停止）	法律学専攻	中専免（社会） 高専免（公民）
経済学研究科 （募集停止）	経済学専攻	中専免（社会） 高専免（公民）
経営学研究科 （募集停止）	経営学専攻	高専免（商業）

大学としての全体評価

中京大学は1954（昭和29）年の開学以来、「挑戦する大学」としての歴史を力強く歩み、2024年度に開学70周年を迎えました。2024年度現在10学部と9研究科を擁する総合大学に発展することができました。また、総合大学の強みを生かし10学部16学科、9研究科14専攻において教職課程を設置しております。梅村学園の建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」に立ちつつ研究と教育に邁進し、社会の多様な課題に挑み、その健全な発展に貢献するよう努めており、大学での教員養成を重要な軸とする開放制教員養成の理念に沿って教員養成を行っております。

本学で取得できる免許種は中学校教諭1種免許（国語、英語、社会、保健体育）、高等学校教諭1種免許（国語、書道、英語、保健体育、公民、地理歴史、商業、工業）及び専修免許というように各学部・研究科の特性を活かした教科の免許を取得することができます。2024年度に設置された人文社会科学研究科では、研究科共通科目として学校教員を目指す学生を対象にした教職支援科目群を開講するなど学問領域への関心を深められるカリキュラムを実現しています。

本学の教員養成課程は、各学部・学科が教員養成の責任を持ち、それぞれの専門領域と関係の深い教科及び教科の指導法に関する科目を開講しております。また、全学を横断的に担当している教養教育研究院において、教職専門科目の担当教員が、全学部の教職専門領域の科目を担うことで、専門性と一貫性、統合性のある教職課程の教育を実施しております。

各学部・学科においては、その特徴に合わせた独自の取り組みを展開する一方、教科教育法、教科専門科目の担当教員と教職専門科目の担当教員で構成される教職センターでは、センター員として教職センター会議によって全学的な課題の洗い出しや学部固有の教職に関する問題にいたるまで具体的な検討、調整を行っています。全学組織である教職センター委員会では教職センター会議での議論を踏まえ、その内容を審議すると共に、各学部教授会に対して報告を行う役割を有しています。このようにして教職センターは、それぞれの学部・研究科と連携し教職課程を運営しております。

就職状況としては、毎年200名近くの既卒者を含む学生が教員として、全国各地の教育委員会に採用され、教職の道に就いております。

本学では、前述のとおり教職センターと各学部、教養教育研究院が密接に関わり教職課程の質の保証や改善に対して取り組んできました。引き続き自己点検・評価を通して明らかになった課題に対して改善に取り組み、より質の高い教職教育を実施していきます。

中京大学
学長 梅村 清英

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	6
	基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な 取り組み	6
	基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援	10
	基準領域3 適切な教職課程カリキュラム	15
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	22
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	23

基準項目

〔基準領域1〕 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫

〔基準領域2〕 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

基準項目2-2 教職へのキャリア支援

〔基準領域3〕 適切な教職課程カリキュラム

基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

基準項目3-2 実践的指導力育成と地域との連携

I 教職課程の現況及び特色

1 教職課程の現況

(1) 大学名：中京大学

(2) 学部名：文学部、国際学部、心理学部、法学部、経済学部、経営学部、
総合政策学部、工学部、現代社会学部、スポーツ科学部

研究科名：人文社会科学研究科、心理学研究科、スポーツ科学研究科、
(以下、令和6年募集停止)

文学研究科、国際英語学研究科、社会学研究科、
法学研究科、経済学研究科、経営学研究科

(3) 所在地：愛知県名古屋市昭和区八事本町 101-2 (名古屋キャンパス)
愛知県豊田市貝津町床立 101 (豊田キャンパス)

(4) 教職課程の履修者数及び教員数

①教職課程の履修者数

課程等 (学部・通学)

令和6年度 (令和6年5月1日現在)

学部	学科名	免許種 (教科)	教職課程履修者数			合計
			2年	3年	4年	
文	日本文	中1種 (国語)	19	19	17	55
		高1種 (国語)	19	19	17	55
		高1種 (書道)	3	3	6	12
	言語表現	中1種 (国語)	4	8	5	17
		高1種 (国語)	4	9	5	18
		高1種 (書道)	0	4	2	6
	歴史文化	中一種 (社会)	23	15	21	59
高一種 (地理歴史)		23	15	21	59	
国際	言語文化	中一種 (英語)	13	16	11	40
		高一種 (英語)	14	16	11	41
心理	心理	中一種 (社会)	4	1	4	9
		高一種 (公民)	3	1	3	7
法	法律	中一種 (社会)	5	9	2	16
		高一種 (公民)	4	6	0	10
経済	経済	中一種 (社会)	7	8	8	23
		高一種 (公民)	8	8	10	26
		高一種 (地理歴史)	7	8	10	25
		高一種 (商業)	1	0	2	3
経営	経営	中一種 (社会)	2	2	2	6
		高一種 (公民)	5	5	2	12
		高一種 (地理歴史)	0	2	2	4
		高一種 (商業)	0	1	2	3

総合政策	総合政策	中一種（社会）	6	8	4	18
		高一種（公民）	8	6	2	16
		高一種（地理歴史）	8	7	2	17
現代社会	現代社会	中一種（社会）	12	13	12	37
		高一種（公民）	12	10	13	35
工	電気電子工	高一種（工業）	1	0	0	1
スポーツ科	スポーツ教育	中一種（保健体育）	150	136	118	404
		高一種（保健体育）	150	136	118	404
	競技スポーツ科	中一種（保健体育）	107	106	102	315
		高一種（保健体育）	107	106	102	315
	スポーツ健康科	中一種（保健体育）	51	43	22	116
		高一種（保健体育）	51	43	22	116
	トレーナー	中一種（保健体育）	14	23	23	60
		高一種（保健体育）	14	23	23	60
	スポーツ マネジメント	中一種（保健体育）	22	16	15	53
		高一種（保健体育）	22	16	15	53

課程等（大学院・通学）

令和6年度（令和6年5月1日現在）

研究科（修士）	専攻	免許種（教科）	教職課程 履修者数		合計
			1年	2年	
人文社会科学	日本語日本文学	中専免（国語）	1	—	1
		高専免（国語）	2	—	2
		高専免（書道）	0	—	0
	言語文化専攻	中専免（英語）	1	—	1
		高専免（英語）	1	—	1
	歴史文化専攻	中専免（社会）	1	—	1
高専免（地理歴史）		1	—	1	
心理学	実験・応用心理学	高専免（公民）	0	0	0
	臨床・発達心理学	高専免（公民）	0	0	0
スポーツ科学	スポーツ科学	中専免（保険体育）	6	11	17
		高専免（保険体育）	6	11	17
文学※	日本文学・日本語文化	中専免（国語）	—	1	1
		高専免（国語）	—	1	1
		高専免（書道）	—	0	0
	歴史文化	中専免（社会）	—	2	2
		高専免（地理歴史）	—	2	2
国際英語学※	国際英語学専攻	中専免（英語）	—	0	0
		高専免（英語）	—	0	0
	英米文化学専攻	中専免（英語）	—	0	0
		高専免（英語）	—	0	0
社会学研究科※	社会学	中専免（社会）	—	0	0
		高専免（公民）	—	0	0
法学研究科※	法律学	中専免（社会）	—	0	0
		高専免（公民）	—	0	0

経済学研究科※	経済学	中専免（社会）	－	0	0
		高専免（公民）	－	0	0
経営学研究科※	経営学	高専免（商業）	－	0	0

※令和6年募集停止

②教員数

	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	192	83	48	3	31
備考：					

(5) 卒業者の現況

課程等（学部・通学）

令和5年度卒業生（令和6年5月1日現在）

学部	学科名	就職先状況							
		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校	
		正規	他	正規	他	正規	他	正規	他
文	日本文	0	0	7	0	5	0	0	0
	言語表現	0	0	1	0	1	1	0	0
	歴史文化	0	0	6	0	3	0	0	0
国際	言語文化	0	0	2	0	2	0	0	0
心理	心理	0	0	1	0	0	0	0	0
法	法律	0	0	1	0	0	1	1	0
経済	経済	0	0	1	0	1	0	0	0
経営	経営	0	0	0	0	0	0	0	0
総合政策	総合政策	0	0	2	0	0	0	0	0
現代社会	現代社会	0	0	4	0	1	0	0	0
工	電気電子工	0	0	0	0	0	0	0	0
スポーツ科	スポーツ教育	27	0	13	2	4	9	3	0
	競技スポーツ科	1	0	4	0	4	8	2	1
	スポーツ健康科	0	0	4	0	0	1	0	0

課程等（大学院・通学）

令和5年度卒業生（令和6年5月1日現在）

研究科 (修士)	専攻	就職先状況							
		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校	
		正規	他	正規	他	正規	他	正規	他
文学	日本文学・日本語文化	0	0	0	0	0	0	0	0
国際英語学	国際英語学	0	0	0	0	0	0	0	0
	英米文化学	0	0	0	0	0	0	0	0

心理学	実験・応用心理学	0	0	0	0	0	0	0	0
	臨床・発達心理学	0	0	0	0	0	0	0	0
社会学	社会学	0	0	0	0	0	0	0	0
法学	法律学	0	0	0	0	0	0	0	0
経済学	経済学	0	0	0	0	0	0	0	0
経営学	経営学	0	0	0	0	0	0	0	0
スポーツ科学	スポーツ科学	0	0	0	0	1	0	0	0

2 特色

中京大学は、1954年（昭和29年）に短期大学（商科）として開学し、1956年（昭和31年）に4年生大学として中京大学商学部が開学する。教職課程は、本学が4年制大学となった翌年である1957年（昭和32年）に認可された。その後、1959年（昭和34年）に体育学部が開設され現在では、10学部（文、国際、心理、現代社会、法、経済、経営、総合政策、工、スポーツ科）を擁する総合大学になり、すべての学部に教職課程を置き教員の養成を行っている。また研究科においては、2024年4月、既存の文学研究科、国際英語学研究科、法学研究科、経済学研究科、経営学研究科の修士課程を再編・統合し、新たに人文社会学研究科を設置した。これにより、既存（募集停止む）の研究科を含め9研究科に教職課程を設置し、専修免許取得まで研鑽を積みたいという学生に学習の機会に込めている。

教員に求められる資質としては次のような事項をあげることができ、中京大学の建学の精神の理念と整合性を持つものと考えられる。

- ①教育の役割を理解し、教育に対する強い情熱と使命感、さらに、子どもの人格を尊重する態度と、深い愛情をもっていること。
- ②よりよい教育実践をつくるため、向上心をもち、より高い自分自身を追究する自己研鑽への態度をもっていること。
- ③学問を尊重する確かな態度をもち、専門領域について訓練を受け、適切な教材準備ができるだけの学術的力量を備えていること。
- ④的確な生徒理解に通じる対人的共感性を備えていると同時に、子どもを取り巻く環境への確かな認識をもっていること。また生徒集団への支援や管理の力をもっていること。
- ⑤学校という組織の一員として必要な対人関係能力や役割意識を備え、協力して組織運営に携わる力をもっていること。
- ⑥グローバルな視野をもち、国際社会における日本の役割、個人の役割についての認識をもち、コミュニケーション能力を発揮して、地球全体の幸福を志向した社会貢献が可能な力を備えていること。

こういった資質を持つ教員を養成する環境として、中京大学は総合大学として望ましい条件を備えている。多様な学問を専攻する仲間との実際的な交流が可能

な環境、活発な部活・サークル活動、さらには日常の会話・交流が、学生の経験の幅を大きく広げ、それはまた教員としてもつべき視野の広さ、視点の多様性の獲得に貢献する。2023年度は264名、2024年度は327名の学生が卒業時に教員免許を取得している。大学全体としては、保健体育科を中心に教員採用枠が少なかった時代においても毎年数十名、採用枠が拡大された近年に至っては既卒者も含め毎年200名近くの卒業生が教育現場で教員として活躍している。

本学では、各学部、学科が教員養成の責任をもつことで、各学部の専門領域を深く学ぶことから、学部の専門領域と関係性の深い「各教科の科目及び教科の指導法」について充実した教育を提供している。また、「教育実習」についても各学部で責任を持って実施している。

教職専門科目である「教育の基礎的理解に関する科目等」や「教職実践演習」については、全学部の教養科目（以後、全学共通科目）を担当する教養教育研究院に所属する教職領域を専門とする専任教員が担当することで、大学全体として教職課程の一貫性と統合性のある教育を可能にしている。また、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」については、教養教育研究院で開講されている科目に加え、各学部においてそれぞれの特性を活かした授業が展開されている。

教職の組織体制としては、各学部と教職センターが全学的に連携し、教職に関する調整と改善を計画的に行っている。また、教職課程を担当する教員については、各学部において十分な能力を有した人材を採用しており、学問的にも実践的にも高い見識を持つ教員を配置している。本学においては、このような組織、人材を通じて、直面する教育の変化に対応することを可能にしている。

II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1-1 教職課程教育の目的・目標の共有

〔現状〕

本学の建学の精神は、1923年（大正12年）に、学校法人梅村学園の母体である中京商業学校の設立にあたり、創立者の梅村清光が掲げた理念、「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」である。スポーツマンシップという言葉に象徴される人格陶冶の理念として、「ルールを守る」「ベストを尽くす」「チームワークをつくる」「相手に敬意をもつ」の四大綱が掲げられている。学術を極めると同時に、家庭人として、社会人として、国民としての人のあり方を追究することを求めた精神がここにあり、同時に本学が求める社会のあり方もここに集約されている。

本学が教員養成の役割の一端を担うことは、建学の精神から言って当然の帰結であり、教員に求められる素養と、本学の建学の精神の理念には整合性があるものと考えられる。建学の精神を踏まえた、各学部・学科及び研究科における教育目標、養成する人材像および教育カリキュラムに準じた教育目標は、適切に設定されており中京大学ホームページにおいて、公表され広く周知されている。

本学は10学部を擁する総合大学としてすべての学部で教職課程を置き教員の養成を行っている。また、研究科においては2024年度4月に人文社会科学研究科が設置され既存（募集停止含む）の研究科と合わせて9研究科に教職課程を置き教員の養成を行っている。

各学部・研究科は教職課程に責任を持って運営され、各学部の養成する人材像とともに、教育カリキュラムに準じた到達目標を定めている。また、中京大学の教員養成に対する理念・構想・養成する教員像及び各学部学科・研究科における教員養成に対する理念等については、中京大学ホームページ等により公表されている。これら公開されている内容は、各学部の教職担当委員を中心に見直しを行い、教授会・研究科委員会等を通じて共有が図られている。

教職課程を希望する学生に対して、教職課程ガイダンス等において本学の四大綱をあわせて説明し、現場の期待に応えうる実践力と豊かな社会性を兼ね備えた人材の育成を目指している。

〔優れた取組〕

教職履修カルテに「中京大学の教員養成に対する理念・構想・養成する教員像」を掲載するとともに、各学部の理念について確認できるように教職履修カルテにホ

ホームページのリンクを設定して参照できるようにしている。

〔改善の方向性・課題〕

教職課程に関する教育理念及び各段階における到達目標については、自己点検をきっかけにカリキュラム変更に伴う齟齬がないか、全学部で内容の確認を行い、内容を改善し学部内で共有された上でホームページにて公開している。

これらのことから、教職課程教育の目的・目標の共有に関する取り組みについては概ね良好である。今後、カリキュラム変更等に合わせて適切に見直しを図り、修正・公開していく。なお、情報量が多いことから、今後見直しを図る際は受け手側が情報を整理できているかを確認しながら検討することが望ましい。

基本的には学部毎の対応であり周知方法が限定的になることから全学的共有については不十分な部分がある。今後、全学部に関わる教員への周知方法についての検討が必要である。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 1-1-1 : 「取得可能免許および教員養成に対する理念」
https://www.chukyo-u.ac.jp/support/career_3/t2.html
 (中京大学ホームページ／各種規程・教員養成に対する理念等)

基準項目 1-2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状〕

本学では、各学部、学科及び研究科が教員養成の責任をもち、「教科及び教科の指導法に関する科目」、「教育実習」、「大学が独自に設定する科目」を開講し、各学部の特徴を生かした教科専門領域の充実した教育を提供している。

また、全学共通科目を担う教養教育研究院においては、全学的見地から教職専門教育の「基礎的理解に関する科目等」「教職実践演習」等の教職専門科目を開講し、大学全体として教職課程の一貫性と統合性のある教育を実施している。

また、2015年に教職運営を担う全学組織として教職センターを設置し、これまで安定的・効果的な教職運営を行っている。

各学部の「教科に関する科目」及び教養教育研究院の「教職に関係する科目」は、教職センターによって全学的に連携し、教職教育の調整と改善を継続的に行っている。教職センターが、有効に機能することにより、教育実習や介護等体験の学外実習、学校ボランティア、教育環境の変化、学修支援、キャリア支援及び教職課程に関する情報公開等に対して適切に対応することを可能にしている。

教職センターの構成員は、教養教育研究院から「各教科に共通する教職専門科

目」を担当する専任の大学教員 4 人、学部から「教科教育法又は教科専門科目」を担当する専任の大学教員 4 人、教学部教務センターに所属する教職を担当する職員から構成されており、日常的な個別課題と教職課程全体の在り方について具体的に取り組み、議論の成果を全学に提供、提案する活動によって有機的かつ即応的に対応している。

また、教職センターでは業務の適正かつ円滑な運営を期するために、教職センター委員会を設置している。教職センター委員会は、教職課程を設置する各学部・研究科から選出された委員で構成されている。教職センター委員会は、教職センター会議での議論を踏まえ、その内容について審議したうえで各学部教授会・研究科委員会に報告すると共に、学部・研究科に対して各種依頼を行うことで適正かつ円滑に教職課程が運営される。

大学全体の設備として各教室には、教室の規模に合わせてプロジェクターやモニター及び LAN が敷設されており、学生は自ら所有する PC を接続して活用できる環境が整っている。

各学部においては、学部固有の専門的な施設を有しており、それらを教職課程においても利用することで教科に関する高度な教育が行われている。具体的な各学部の施設として、文学部においては貴重書などを閲覧できる図書資料施設、古典芸能・演劇・朗読など言語文化を实践できる舞台教室、流し・展示・視聴覚機器を備えた書道室、社会や地理歴史の資料として必要な古文書を保管・展示・調査研究ができる古文書室を整備している。

また、経済学部等では、統計データから情報を収集し、コンピュータを活用して経済現象を解析、判断をする授業が BYOD によって実施され、PC を用いたデータ分析などの機会を通じてデジタル教材を用いる素養の形成になっている。各学部の教育カリキュラムと取得免許との関連が強いため教職支援に特化した学部ごとの施設は少ないが、学部・大学院の特徴を活かした施設を利用した教育・支援を行っている。

FD・SD 活動については、全学組織である教育推進センターが担っており大学全体の活動として授業改善のためのアンケートや FD セミナーが行われている。なお、教職課程の質的向上を目的とした範囲での取り組みとしては、各種講演会・研修会等に参加し動向や法令改正などを把握するほか、適宜関係者に教職センター委員会等で情報共有を行い教職課程運営に必要な知識を身に付けられるよう取り組んでいる。また、授業方法やカリキュラム内容を改善・向上させるための授業見学を行う FD 参観制度を活用し、教職課程の質的向上に努めている。

〔優れた取組〕

教職センターに初等中等教育の管理職（主に校長）を経験した元教員を実践的な立場から学生サポートを行う職員を教職指導官として名古屋、豊田キャンパスに合わせ 5 人配置している。教職指導官を教職センターに配置することで学部によ

らず教員に必要な資質づくりに関する支援が行われている。

その他、教職課程の学生が自主的に模擬授業などを行える教職演習室や個別指導を行う面談室、教職関係の書籍などが設置されている図書コーナーなども教職センターに用意されている。

〔改善の方向性・課題〕

適切な人員配置は行われており、各学部の施設が有効に利用できる利点があるものの、教職教育専門の模擬授業等で活用できる専用教室などの整備については、現在、大学全体としてアクティブラーニングに視点を踏まえた教室整備を行っていることから、今後これらの教室を共有、有効活用していく。デジタル教材の調査・拡充、それらを用いた教育の質の向上につなげる組織的対応は、継続課題であるが ICT 分野に詳しい専任教員を迎えられたことから今後対応を検討していく。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 1 - 2 - 1 : 「教職センター」

https://www.chukyo-u.ac.jp/support/career_3/

(中京大学ホームページ／学生支援／教職センター)

- ・資料 1 - 2 - 2 : 「教職センター活動報告」

https://www.chukyo-u.ac.jp/support/career_3/t2.html

(中京大学ホームページ／各種規程・教員養成に対する理念等)

基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目 2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状〕

本学は開放制の教員養成の原則に基づき、各学部・学科、研究科の専門教育により幅広い視野と高度の専門的知識・技能を兼ね備えた質の高い教員養成を目指し各学部・学科、研究科において教職課程を設置している。学部の教職課程履修者は課程開始の2年次から4年次で見ると13%程度である。教職課程履修者の多くは入学前から教員免許取得を希望している者が多い。

教職課程履修を希望する学生は1年次12月に実施される教職課程ガイダンスに参加し、教職課程を履修する際の注意事項や心構え、教職に関する支援体制の説明や、教員採用選考試験の現状などについて幅広く説明を受け、1年次終わりの3月末に教職課程への申込を行うことで2年次から教職課程の履修が可能になる。なお、ガイダンスに参加していない学生は、教職課程の履修が認められない。

本学学生の特徴として、入学時から教職を目指している学生が多く、また総合大学の利点を活かし、他学部学生との交流や部活動などを通じて上級生等からアドバイスをすることで幅広い視点のもとで教職を目指すことができる利点がある。

各学部における教職を担う人材の育成については、それぞれの学部の特色を活かした指導がなされている。学部の個別の取り組みとして、文学部では、教職履修相談会を実施し教職科目のカリキュラム説明や上級生からの生のアドバイスを受けることができる。また、教育実習報告会を開催し、招聘した現職教員から助言を受けることで、実習の成果をより深める工夫を行っている。

国際学部では、学校教員にふさわしい人材の育成を目的に、教職課程履修において基準を設けており、1年半をかけて、週2回4単位で実施される「教科教育法」と「英語科単元構成論」を履修する中で指導ができる工夫が図られている。また、教員経験者と教員採用選考試験合格者を招いた教職課程特別講演会を実施するなど、指導教員および教職担当教員による履修指導や進路指導を通じて具体的な支援が行われている。

法学部では、教職センター委員が教職履修カルテ等から状況を確認し、個別に面談を行っている。また、教職課程説明相談会にて教員採用選考試験合格者から教職課程を履修する上での心構え（教員免許要件科目以外の法学部固有科目をおろそかにせず、特に演習（ゼミナール）を進んで履修すること）や、教育実習・採用試験の体験談などを伝え、個別の相談にも応じている。

経営学部では、ゼミナールや各種実習を通して教職にも必要な問題を発見し分析・解析する能力やコミュニケーション能力の向上に配慮している。

スポーツ科学部では、教員にふさわしい人材を受け入れるために、教職課程履修要件として修得単位数やGPAの条件を設ける以外にも履修ガイダンスから履修手

続きの間に教員志望の意思確認のための課題レポート提出も課している。

多くの学部の演習科目（ゼミ）において、教職を担うにふさわしい人物となるよう個別指導が実施される。また、教員採用選考試験合格者報告会などの多くの教職支援イベントの開催を通して即戦力となる学生の育成を行っている。

教職履修カルテについて教職課程履修者は、2年次終わりにそれまでの学習内容を振り返り、教職履修カルテを作成し提出する。また、3年次終わりにそれ以降の内容を追記し提出すると共に、教職実践演習にて活用する。各担当教員は提出された教職履修カルテを確認し、コメントなどを返すことで、各年度の学修状況を共有し、適宜指導を行っている。

また、本学において課程認定を受けていない免許についても、他大学との協定により取得することを可能としている。文、国際、心理、法、現代社会、スポーツ科学部では、玉川大学との協定により小学校二種免許状を取得することができるほか、歴史文化学科においては、高等学校教諭一種免許（公民）取得できる。さらに、明星大学との協定により、国際、心理、法、経済、経営、総合政策、スポーツ科学部では、特別支援学校教諭一種免許を取得できる。

〔優れた取組〕

教職課程履修者は、1年次終わりの申し込みに続き、2年次終わりに継続手続きを行う2段階制を設けている。2年次の教職課程ガイダンスにおいて、教育実習や介護等体験、教員採用選考試験対策などについて具体的に説明を受けることで、自らの意思で教職課程を継続し教育実習の手続きを行うかを改めて考える機会となるように工夫されている。また、教職課程の費用についても2段階とすることで2年次で辞退する学生の負担軽減となっている。

文学部やスポーツ科学部においては、教育実習の内容、留意点などを教育実習報告として冊子にまとめるなど、下級生の教育実習がより充実するよう工夫がなされている。

また、各学部は教職センターと連携しながら履修学生の課題の共有と問題への対処を随時行っている。

幅広いネットワークを有する卒業生の教員組織として、校友会に学校部会が組織されている。この組織と連携し、卒業生による特別学習会や合格者への新任研修会などが行われている。

他大学との連携協定による通信教育での免許取得プログラムでは、本学において中学校教諭一種免許の取得が必須であるため、参加学生にはさらなる履修の負担が増すことになる。このことから、これらの免許取得プログラムに参加するためには、各学部において選考面談を課し、卒業後は教員を第一志望としている強い意志を持っている学生に限り認めている。

〔改善の方向性・課題〕

適切な学生の育成として、各授業科目と教員としての資質の関連性について、個々の授業の中でさらに明確に提示するように努力する。

演習科目（ゼミ）が必修でない学部では課題解決能力やコミュニケーション能力の向上にとくに資するであろうと考えられる各種の実践型科目を優先して履修していくように学生指導をしていく。

学部専門科目の授業とは別に教職課程履修者は、教職課程の科目を履修する必要があることから履修単位が増え学生の負担が多くなる傾向がある。学部授業と教職科目の時間割についても過密になる傾向があり、計画的に履修を行わないと卒業までに必要な科目が取れないケースも見受けられることから、学習の質を保つために学部ガイダンスや個別指導において丁寧な履修指導を教職センターと連携して行っていく。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-1-1 : 「教員採用選考試験実績」、「教員免許状取得者の進路先」
https://www.chukyo-u.ac.jp/support/career_3/t1.html#anchor1
 (中京大学ホームページ/教員採用試験実績・教員免許状取得者の進路先)
- ・資料 2-1-2 : 「教職履修カルテ (様式)」

基準項目 2-2 教職へのキャリア支援

〔現状〕

多くの学部でキャリア系科目が実施されており、教職に限らずキャリア支援の充実が図られている。例えばスポーツ科学部などでは、一般企業の卒業生の招聘だけでなく、現職教員の卒業生についても招聘し、就職という視点も含めて幅広く紹介、指導がなされている。

文学部では、国語科教育実習報告会で卒業生の教員 2 名、歴史文化学科教育実習報告会で卒業生の教員 10 名が来校し 2~4 年生にアドバイスを行うほか「教員のやりがい」などの講話を行っている。

法学部では、教職課程履修中の 2・3 年生及び教職課程の履修を希望する 1 年生の学生も対象とし、主として法学部教職課程卒業生が組織する「中京大学八事会主催・中京大学法学部校友会後援の教育講演会」と連携し、実際に教育現場で働いている教員の講演、教職に関する相談会を開催するなどして、きめ細やかなキャリア支援を実施している。この取り組みは、全学にも開放し、教職センター委員会で情報共有を図り、法学部以外の学生も参加している。

また、ゼミ教員等による学生ひとりひとりの希望や状況に応じたきめ細かな支援

の他、公立学校の管理職経験のある元教員である教職指導官による個別サポートなどを通じて、学生の個別相談に応じたキャリア支援を行っている。

教職に就くための適性を知る上でも、教員の視点で学生自身が学校現場を知ることが大切であることから教職センターでは、1年次の早期から学校ボランティアや授業支援活動の紹介を行っている。

教育実習は多くの場合、4年次の5月から6月に実施されるが、一般企業の採用試験や部活動の試合などと重複する場合がある。本学では教育実習専念義務として、就職活動や部活動による教育実習の欠勤、遅刻、早退および教育実習時期の変更などはできないことを1年次の最初のガイダンスで説明するほか、3年次および4年次の教育実習に関するガイダンスでも繰り返し周知徹底し、できるだけ早く進路に関わる情報提供を行うことで、教育実習や他の活動に支障が出ないようにしている。前述のとおり本学では教育実習期間中は教育実習に専念するよう指導していることから、一般企業の採用試験との重複などがある場合、一般企業との併願は難しくなる。学生への適切なキャリア支援の実施に向けて、教職課程ガイダンスや教職支援セミナーを利用し、教員志望調査を行い、教職に対する意欲の把握に努めている。

また、教員採用選考試験合格に向け、教職課程および教員採用選考試験のスケジュールに応じた体系的な支援として筆記試験対策講座を2年次から4年次春まで実施するほか、教職指導官によるグループ学習会や個別サポートにおける具体的な人物評価試験対策を実施している。

なお、教員採用選考試験に惜しくも合格に至らなかった学生には、講師登録説明会を実施し、講師登録の制度や卒業後に継続して教員を目指すための方法及び卒業後の支援内容を説明することで教員就職率が高まるようサポートを行っている。講師登録説明会は、教育委員会から講師を招くなど地域と連携して行っている。学生には進路希望、講師登録の意思を確認し、講師希望一覧を作成し学校現場に周知すると共に、学校現場より講師の依頼があった際には紹介するなどの対応を随時行っている。

教職支援セミナーでは、教員の素養向上に向けた講話を行うなど教員採用選考試験の合格がゴールではなく、教育者としての素養と能力を高められるよう支援を行っている。また、既に教員として活躍する本学卒業生を招いた講演会などを通して、教員採用選考試験対策に留まらず、第一線で働くことのできる姿勢づくりや実践力の育成に努めている。なお、卒業後においても希望する卒業生には採用にいたるまで教職指導官による個別指導や特別学習会などの支援を継続して行っている。

教員採用選考試験の早期化を踏まえ入学時から教員志望者への指導をよりきめ細かく行う必要がある教職センターの教職指導官によるサポート内容については常に見直しを行っている。

名古屋キャンパスでは、教職課程履修前の一年生を主な対象者として、教職課程履修者（2・3年生）の学生が主催者となり、教職にまつわる様々な情報の提供と教職の魅力を伝えることを目的に「教職フェスタ」を実施している。できるだけ多くの学生が気軽に参加できるように、昼休みの時間に学生が自由に集えるフリース

ペースを利用するなど工夫している。

〔優れた取組〕

本学独自の取り組みとして、教育実習および事前訪問に先立ち、教員としてはもちろん、社会人としても必要となるビジネスマナーを身に付けるためのマナー研修を実施し、参加を義務付けており、教育実習を履修するための必修条件としている。

教職支援体制としては早期より体系的な支援を展開するにあたり、本学卒業生で管理職を経験した元教員である教職指導官によるサポートを行っている。教職指導官による支援は、サポートを受ける学生にとって親しみやすく、かつ長年現場を経験してきたベテラン教員による信頼感を持つものであり、教員を目指す学生の将来の目標を具現化することにつながっている。

教員採用選考試験に向けたサポートの他、採用試験が終了した後の 4 年次秋学期からも、実際に教壇に立つ上で必要となる実践的な知識を身に付けるための教職指導官による勉強会や、卒業直前の 3 月に実施する合格者研修会（現職教員の卒業生による新任研修会）において、着任後に教員としてスムーズに教育現場に入れるよう助言を行うなど、単に教員採用選考試験の対策だけに止まらない、サポートを実施している。

〔改善の方向性・課題〕

昨今の教員の働き方をめぐる報道を一因とした教員離れや、社会経済状況から教職の道を選ばず、セカンドキャリアの一つとして教員免許の取得のみを希望する学生も少なからずみられる。また、一般企業の人手不足による売り手市場からか、講師登録を行う学生が減少している状況がある。

学生の教職に対する意欲や適性の把握方法について試行錯誤している状態であり、ガイダンス等で動向を把握しキャリア支援につなげていけるようにしていく必要がある。

また、名古屋キャンパスで実施している教職フェスタを拡充するなど学生と共に引き続き教職に関する情報提供を行う場を設定していきたい。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 2-2-1 : 「教職センター活動報告（6. 各種教員採用試験支援内容）」
https://www.chukyo-u.ac.jp/support/career_3/t2.html#anchor3
 （中京大学ホームページ／各種規程・教員養成に対する理念等）
- ・資料 2-2-2 : 「教職センターパンフレット」
https://www.chukyo-u.ac.jp/support/pdf/career_3/2024_leaflet.pdf
- ・資料 2-2-3 : 「教職フェスタ」

基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施

〔現状〕

本学では全学部において履修登録制限単位が設定されており、おおむね1セメスターあたり24単位に制限されているが、各学部の卒業所要単位に含まれない教職専門科目等はこの制限には含まれない。

教職課程科目の「教育の基礎的理解に関する科目等」については、教養教育研究院の教職専任教員、「教科及び教科の指導法に関する科目」については、各学部の責任のもと実施されている。また、「教育職員免許法施行規則第66条の6に関する科目」については、教養教育研究院で開講される科目に加え、各学部においてそれぞれの教育内容に合わせた科目が展開されている。

カリキュラム変更や科目変更等については、教職センターと関係部署が連携しながら認定基準に従った教職課程カリキュラムとなるよう十分に注意している。科目担当教員の業績については、特に教科教育法を中心に適格性を十分に考慮している。また、教職専門科目の担当教員について、担当する授業科目に関連した分野の業績及び実績を有し、当該科目を担当するために十分な能力を有しているかを隣接分野の教員が同席のもとで確認している。

教職課程のカリキュラムに関する説明や履修方法については、学生便覧及びホームページに掲載しており、全学生、教員が確認できるようになっている。また、1年次には、履修を希望する学生に対して、教職センターが教職課程ガイダンスを実施して、カリキュラムや手続き方法について説明を行う。さらに、各学年で実施される教職課程ガイダンスにおいても繰り返し確認するほか、学内システムを利用し、教職課程を履修する学生に適宜、周知を行っている。

なお、教職課程申請や変更届などに関する書類の準備や調整などの実務作業については教職センターの事務部門と教務事務担当部門が連携し全学部・研究科を取りまとめて実施している。

全学的な取組として、教職課程を履修する学生に対する卒業までの大まかな年間スケジュールを示している。それによって学部やキャンパス、各学年に合わせた内容の教職課程ガイダンスを実施するとともに、修得科目の確認及び卒業までの履修計画を立てるよう指導を行っている。

「教育の基礎的理解に関する科目等」に関する教職専門科目の履修については、過度な履修にならないよう2年次春学期の教職入門に始まり4年次秋学期の教職実践演習まで各セメスターで3科目程度を修得するように教育内容を考慮して配置されている。

教育実習指導については、各学部で責任をもって行っており、教育実習に向けて、学生一人ひとりの教育効果を高めるため模擬授業や授業観察を中心とした指導が行われている。また、教育実習中においては原則、学校訪問を行い現場で実践する

学生に対して指導・支援を実施している。

ICT 機器を活用した指導について、情報機器に関する科目を中心に「情報機器の活用を含む」科目で発展的・系統的に行われている。関連科目での学習の活性化を促進するために、継続的に教材や機器、教育環境等の整備、充実を図っている。

シラバスに授業の到達目標、授業内容、成績評価方法、基準等を明記し、大学のラーニング・マネジメント・システムから学生がいつでも確認できるようにしている。シラバスの点検については、学内点検ルールに基づき各学部において継続して実施している。

教職実践演習では、履修カルテを活用し、自己と自己の目指す職種についての現状と課題を明確にすることを促し、それをもとに指導を行っている。

なお、教職履修カルテについて随時見直しを行っており、記入項目が多く作成に当たり負担が多いとの学生からの意見などもあったことから、教職履修カルテの書式、記入項目の精査を行い、わかりやすく履修状況、課題の確認が行えるように大幅な変更を行っている。

また、教育実習実施時に作成する教育実習記録についても学生の負担軽減の観点や教育委員会からの要請等もあり記入項目の精査を行っている。

各学部における取り組みとして、文学部の日本文学科および言語表現学科では、グループで自らテーマを設定して自律的・創造的に研究・調査することとしており、主体的・対話的で深い学びを育む教員としての資質を養成している。「国語教材論」という科目では、教科書教材に焦点を合わせ、教壇に立った時に、教材をより豊かに読解できるように配慮して、カリキュラムを組んでいる。

歴史文化学科では、教科教育法の講義において履修する学生が全員模擬授業をおこなう。模擬授業には必ずアクティブ・ラーニング（「主体的・対話的で深い学び」）やグループワークを取り入れることとしており、模擬授業の後には全員で「良かった所、課題となるところ」を議論している。また学生が「モノ教材」（実物等）を用意し、授業展開を発表する機会（全員1回）を設けており、より実践的能力が身につく講義内容となっている。

心理学部では、障害やメンタルヘルスを学ぶための充実した科目配置を行なうことで、特色ある教員養成を行っている。また、ICT機器を活用し、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるように、機器操作・情報検索・データ解析・資料作成・プレゼンテーション等の技術習得とその向上を図った指導を、複数の授業を通じて行っているほか、演習などにおけるアクティブ・ラーニングやグループワークを通じて、課題発見や課題解決等の力量を育成している。

国際学部では、学士課程設置趣旨と教職課程設置趣旨の整合性を認識させる指導を各科目で行っている。また、対面・オンラインでの指導案検討・模擬授業・実習の振り返りなど、十分な時間を取って事前事後指導を行い、今年度対象となった13名の教育実習を完了した。加えて、次年度教育実習に向けて、その教育効果を高めるために模擬授業や授業観察を中心とした指導を行っている。

総合政策学部では、学部カリキュラムとして、社会全般に生起している課題に関

心を持ち、それらに論理的思考方法で対応できる力を涵養するように努め、特色ある教員を養成している。

経済学部では、幅広い知識と広い視野で物事を捉える能力を持ち、社会が求める教育を行うことができる人材の育成を目的とし、学部カリキュラムとして9つの科目群が設けられており学生自ら主体的・自律的に科目を選択できる。このように、学生自身が将来を見据え、自己の責任ある態度で行動をするという考えに重きを置いている。

経営学部では、経営学関連の科目の学習を通して、経営理論を実践に応用する能力の向上を図っている。課題を注意深く発見し、論理的な分析を通して適切に解決できる資質の向上は、将来教職に就く学生にとっても欠かすことができないものである。また、ICT機器の利活用が進んでおり、多くの科目においてICT機器の利活用の下で授業が進められていることから、情報活用能力を育てる教育への対応が充分可能となるような指導が行われている。

現代社会学部では、海外の社会・公民科教育の事例（例：英国のシティズンシップ教育の動向）を扱うなど、国際比較の観点を取り入れた教員養成を行っている。また、現場の社会科教員（高校地理歴史科）をゲスト講師として招き、学生の実践力向上の一役を担っていただいている。また、教科教育法にて、クイズ機能に特化したオンライン・プラットフォーム（Kahoot!等）の活用例を紹介し、その長所・短所について議論を行うなどICTを活用した授業への取り組みも実施されている。

工学部の特徴的な教育には、学部カリキュラムと連携を図った「工業の関連科目」があり、電気系技術の基礎を修得し、実習・実験科目により実践力を強化している。

スポーツ科学部では、教職関連科目を科目群ごとに整理し、各学科の特性を活かした教員養成を行っている。また、体育実技に関しては、更なる実践的指導力の向上のために補完的科目として体育実技指導法を開設している。なお、各科目において模擬授業やマイクロティーチングなどを取り入れることで能動的な学習活動を実践する力の向上を図っている。

〔優れた取組〕

スポーツ科学部では、校友会と連携し北海道から沖縄に至る17の地域で教員経験者21名の卒業生に協力を依頼し、学生64名の教育実習における実習校での巡回指導及び事前事後指導の一部を実施している。これにより、実習中に直接指導ができることはもちろんのこと、卒業後においても出身地の卒業生との接点ができることは、学生にとって大変心強いことである。

〔改善の方向性・課題〕

学部専門科目と教職専門科目の時間割の調整は課題であり、学部によっては再履修時に他の必修科目と重複して履修できないなどの理由により在学中に免許取得

が困難になる学生も稀にはあるが見受けられる。このことから、教職課程ガイダンスにおいて時間割を参考に卒業までの学習計画を前もって立てるように指導し、問題がある場合は教職センターに相談するよう教職課程開始時より注意喚起を行っている。

また、教職課程履修者の学習到達状況の把握や共有、個々に応じた履修指導の継続的な工夫が必要となる。教職履修カルテの作成開始時期について教職課程開始後の2年次秋学期からでは1年時の内容を思い出すのに一苦労しているとの学生からの声もあったことから、1年次の秋学期に行われる教職課程ガイダンスにて説明し作成を開始できるように変更した。

教職専門科目のシラバスにおいて、同一科目の内容の統一性について教養教育研究院の教職専任教員において統一が図れるように再検討・改善がなされた。

介護等体験について、本学の教職課程履修の多くの学生は、部活動などの課外活動へ積極的に参加している状況を鑑みて、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、令和2年度から令和5年度までの間に限り特例的に行う代替え措置による対応を行ってきたが、新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症に移行したことなどを考慮し、令和6年は介護等体験を再開した。介護等体験に400名近くの学生が参加すること、5年ぶりの再開に際して担当者が入れ替わっており未経験者のみでの再開であったが大きなトラブルはなく実施することができた。引き続き受け入れ施設と連携して対応していきたい。

全学的なカリキュラム対応として2025年度より全学部において「数理、データ活用および人工知能に関する科目」に関する科目を追加予定である。

<根拠となる資料・データ等>

・資料3-1-1：「カリキュラム・卒業要件・必要修得単位数・教職課程・資格課程について」

学生便覧（履修ガイド）

<https://www.chukyo-u.ac.jp/student-staff/academics/catalog/index.html>

（中京大学ホームページ／学生便覧（各学部））

学生便覧（教職ガイド）

<https://www.chukyo-u.ac.jp/student-staff/class-faculty08.html>

（中京大学ホームページ／在学生・教職員／資格・教職課程）

基準項目 3-2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状〕

実践的指導力育成の機会の一つとして、学校ボランティア、授業支援、部活動支援などに参加することで学校現場を知ることができ、自身の適性を知り、教員力育

成の向上に繋がることから、1年次の教職支援セミナーにおいて、その意義を説明し参加を推奨している。なお、「なごや教職インターンシップ」や「名古屋土曜学習プログラム」を履修者に紹介し参加を推奨する他、豊田キャンパスにおいては、学校ボランティアとして学校行事や授業支援を教職履修者に紹介、斡旋を行うことで、児童や生徒との実際の関りを持つ機会を提供し、学生に実践的指導力の素養が身につく機会の提供を行っている。

教育委員会等との組織的な連携協力体制として、名古屋市教育委員会及び豊田市教育委員会とそれぞれ連携協定を締結している。これら連携協定に基づく学校現場からの学生派遣の要望は非常に多くなってきている。

その他、教職指導官により、授業の空き時間を利用して、グループ学習会や個別サポート、教職支援セミナーの講話を通じて実体験に基づく実践的指導力の育成を行っている。

文学部では、教育実習報告会において現場の校長や教員よりコロナ禍において大きく変化した教育環境について取り上げている。高校書道履修者にあっては、卒業作品展を美術館で開催することで、作品制作、展示運営等の実践的な技能向上を図っている。また、文学部アクティブ・ラーニング研究会の学生活動として、岐阜県の郡上市教育委員会と連携し、郡上市内の中学校及び県立高校や愛知県の高校などで計6回の授業を行う活動なども行われている。歴史文化学科では学生の自発的な活動として2～3年生25名が「教職サークル」を立ち上げ、社会科の地理的分野、高等学校地理歴史科の地理探求の知識を深める活動を15回実施した。これは、多くの高等学校の文系クラスで「地理」が履修されない傾向からくる不安材料の対策になっている。

国際学部では、教職担当教員が可能な範囲で複数都道府県における中学校・高等学校の授業観察・事後協議会参加機会や授業を通じた生徒との交流機会を提供している。

法学部では、主に法学部卒業生が組織する「八事会」と連携し、法学部を卒業生し現在静岡県で中学校の校長を務めている先生の講演を通じて、地域の子どもの実態や学校の最新事情に触れられる機会を学生に提供している。

総合政策学部では、「八事の森の春祭り」への参加を通して、地域の子どもの実態に触れる機会を提供している。

経営学部等の授業においては、リーダーシップ育成のための実践型科目なども実施されていることから、これらを通して教職に就いた際の指導力が向上するものと考えている。

現代社会学部では、学部教員の研究協力者との連携のもとで、学校制度外の教育現場（日本語教室、自主夜間中学等）でのボランティアの機会が提供されている。

工学部では、元工業高校教員を学科非常勤講師に招聘し、教育実習等において現場実習の教育効果を高めることを目的とした学生指導ならびに学校現場との連携を実施している。

スポーツ科学部では、県内の小・中・高等学校と連携し、教育実習では経験ので

きない校務を学ぶ機会を学生に提供している。

愛知学長懇話会の下にある愛知教育コンソーシアム連絡協議会において、愛知県内の国公立大学で小中学校等の教員免許取得の課程認定を受けている大学・学部間の連携を図り、愛知県・名古屋市を中心とする東海地域における教員養成の質向上を目指している。

愛知教育コンソーシアム連絡協議会で行われている「高校生とともに教師の魅力を考えるフェスタ」など教職に関心のある高校生に対し教職の魅力が伝わるよう、これらイベントには引き続き参加していきたい。

〔優れた取組〕

名古屋市教育委員会および豊田市教育委員会と連携協定において各教育委員会と教職センターが連携し学生に学校ボランティアの斡旋を行っている。特に豊田キャンパスにおいては、地域と教職指導官との繋がりが強いことから教育委員会や学校からの依頼も多く学生を派遣する際には、教職指導官が学生と面談や事前指導をするなどし、適切な学生を派遣している。また、急な学校現場からの学生派遣依頼などに対しても教職指導官が調整役を担い学生を派遣するよう対応を行っている。

2024年度は名古屋市小中学校において体育の授業補助として春学期5校、秋学期7校にスポーツ科学部学生の派遣を行うことができた。

地域連携の活動として協定に基づき、小中学校および高等学校から依頼を受け、本学教員が訪問し授業を行う際に、学生が補助者として授業に参加することで、実際に児童、生徒を指導する機会となっている。

また、相互連携として教職実践演習の中で教育委員会に教員への入り口という位置づけの講演依頼を行っており、「教員の魅力、学校現場から見えてくる子どもや社会の状況、学校現場の取り組みについて」実際の教育現場の状況について毎年、名古屋キャンパス、豊田キャンパスにて講演を実施している。

〔改善の方向性・課題〕

教育委員会や学校からの各種ボランティアの依頼数、活動数が増加しており、今後も継続して効率よく実施できるよう学生への周知・募集方法等を改善していく必要があることから、学校ボランティアに積極的に参加できるよう1年次の教職支援セミナーで周知するなど改善を行っている。これらの学校体験活動を通じて教職への関心を強く持つ学生も見受けられる。一方で、周知情報をタイムリーに確認していない学生がいることは確認できており、教職への関心度を上げることに向け、周知方法や時期について検討していく必要がある。

主に小中学校からの依頼で実施する大学教員による講座（授業）については、定着するにつれ特定の分野、内容に希望が偏ってしまう傾向があり、依頼に対して調整が困難な講座も出てきていることから、引き続き改善、工夫を行っていく。

中学校・高等学校の授業観察・事後協議会等の参加機会や、授業を通じた生徒との交流機会を教職課程全体に拡充していく。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料 3-2-1 : 「中京大学から教育現場へご提供できるコンテンツ一覧」
- ・資料 3-2-2 : 「名古屋市・豊田市教育委員会連携出前授業実績」
- ・資料 3-2-3 : 「高校生とともに教師の魅力を考えるフェスタ」

Ⅲ. 総合評価（全体を通じた自己評価）

教職課程においても、梅村学園の建学の精神に立ちつつ、研究と教育に邁進し、社会の多様な課題に挑み、その健全な発展に貢献するよう努めており、大学での教員養成を重要な軸とする開放制教員養成の理念に沿って、教員養成の役割の一端を担ってきた。取得できる免許種は国語、書道、英語、保健体育、社会、公民、地理歴史、商業、工業と各学部の特性に合わせて多岐に及んでおり、各学部、学科の専門分野との関係性に添って実施されている。教職専門科目においては、全学部を横断して受け持つ教養教育研究院の教職専任教員にて、すべての学部で同じ教育が受けられるように構築されており、どの学部においても教育の質が担保されている。また、教職課程は、教職センター委員会および教職センターにて全学的に連携し、管理運営されている。

また、大学院進学を希望する学生に向けて本学の大学院や、「教員養成の高度化に関する連携協定」を締結している愛知教育大学の教職大学院での教育学の研究するなど、より高度な教育を希望する学生に対して、進路選択の幅を拡げる道筋を示すなど幅広い取り組みを提供している。

教員免許取得者は学部・大学院合わせて2012年度で399人、2016年度314人、2021年度219人と減少傾向が続いたが、2022年度は222人、2023年度は264人、2024年度はスポーツ科学部の学科増もあり327人と増加している。

教員選考試験受験者に対する合格率は、2020年度は33.1%、2021年度30.7%、2022年度29.8%、2023年度は31.1%、2024年度は33.3%とここ数年は30%前後を推移している。一方、卒業後の進路として教職課程履修者の全員が教員を第一志望としておらず、教職課程履修者数に対する教員採用選考試験受験率は全体としては、2020年度72.9%、2021年度62.2%、2022年度50.5%、2023年度58.2%、2024年度54.0%と減少している。減少の要因の一つに2023年度までは愛知県や名古屋市において教育実習受入れの前提として教員採用試験の受験が前提であったが、2024年1月に受験の前提が解除されたことがあげられる。なお受験率について学科別では100%に近い学部・学科がある一方、14.3%にとどまる学科もあり一概に言えない状況であるが、教員採用選考試験を受験しなかった多くの学生は、一般企業等で活躍した後のセカンドキャリアの一つと教職を捉えている傾向が伺える。

教員を第一希望に考えている学生に対しては、早期からの段階的な目標設定と充実した支援を用意して教員採用選考試験に向けて取り組む環境を整えており、教員として経験豊かな管理職を経験した元教員を教職指導官として配置し、教員採用選考試験に向けた合格だけの指導ではなく、即戦力となる実践的な指導を展開している。なお、教員採用選考試験の合格率は、ここ数年30%を維持しているが、教職を第一志望とする学生が増加するよう教職の魅力をより伝えるよう継続して改善・工夫していく必要があることから、指導から支援に変えるなどより学生に受け入れやすいように見直しを図っている。また、教員採用選考試験のさらなる早期化や複線化については、動向を注視して対応を検討していく。

地域との連携に関しては、名古屋市教育委員会および豊田市教育委員会との連携協定に則り、教職指導官の協力も得ながら小中学校の学校ボランティアなどを実施している。今後、教育委員会や学校からの依頼数の増加に対して学生への周知・募集について効率よく行えるよう改善しながら取り組んでいく。なお、学内組織に社会連携部が設置されたことから、これら部署とも連携し地域との関りを深めていく。

今後ますます広がる ICT を活用した授業やデジタル教科書の活用、文部科学省主導による教育現場における DX 化推進など、これからの時代に即した教職教育の見直しや多様化が進む中での課題解決能力やコミュニケーション能力の向上、教職課程における FD・SD 活動などの推進が必要であり、これからの教育を担っていく教員を育成するために本学の特性を活かした教職課程の改善を続け、社会に貢献していきたい。

IV 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

令和 6 年 7 月 24 日 第 2 回教職センター会議

令和 6 年度 教職課程自己点検・評価報告書の作成について報告

令和 6 年 10 月 30 日 第 3 回教職センター会議

令和 5 年度 教職課程自己点検・評価報告書の審査結果について報告

令和 6 年度 教職課程自己点検・評価シート修正、依頼確認

令和 6 年 11 月 20 日 第 2 回教職センター委員会

令和 6 年度 教職課程自己点検・評価シート依頼

令和 7 年 4 月 9 日 第 1 回教職センター会議

令和 6 年度 教職課程自己点検・評価報告書確認

令和 7 年 4 月 23 日 第 1 回教職センター委員会

令和 6 年度 教職課程自己点検・評価報告書審議

令和 7 年 5 月 内部質保証会議提出

令和 7 年 8 月 令和 6 年度 教職課程自己点検・評価報告書公開

資 料

- ・資料 2-1-2 : 「教職履修カルテ (様式)」
- ・資料 2-2-3 : 「教職フェスタ」
- ・資料 3-2-1 : 「中京大学から教育現場へご提供できるコンテンツ一覧」
- ・資料 3-2-2 : 「名古屋市・豊田市教育委員会連携出前授業実績」
- ・資料 3-2-3 : 「高校生とともに教師の魅力を考えるフェスタ」

中京大学

教職課程履修カルテ

(2022年度入学生)

学部: 文学部学科: 日本文学科学籍番号: A122000氏名: 中京 太郎

取得予定免許:

- ・中1種 国語
- ・高1種 国語
- ・高1種 書道

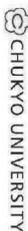
各学部学科における教員養成に対する理念・構想・養成する教員像等について以下からご覧ください。

【中京大学公式ホームページ】(参照するには、ここをクリック)

https://www.chukyo-u.ac.jp/support/career_3/t2.html

リンク先が開かないときは、下記URLをブラウザにコピーまたは打ち込んでください

https://www.chukyo-u.ac.jp/support/career_3/t2.html



CHUKYO UNIVERSITY

中京大学の教員養成に対する理念・構想・養成する教員像

中京大学は、1954年(昭和29年)に短期大学(商科)として発足した。教職課程は、本学が4年制大学となった1956年(昭和31年)の翌年である1957年(昭和32年)に認可された。本学はいま10学部(文学、国際学、心理学、現代社会学、法学、経済学、経営学、総合政策学、工学、スポーツ科学)を擁する大学として、これまでと同様に、すべての学部で教職課程を置き教員の養成を行なっていくこととなる。現在、毎年300名ほどの学生が教職課程を履修し、合計約500件の教員免許状を取得している。特に、スポーツ科学部は、前身の体育学部から、保健体育教員を輩出する全国有数の大学となっている。保健体育科を中心に、大学全体として、教員採用枠が少なかった時代においても毎年数十名、採用枠が拡大された近年に至っては毎年200名近くの卒業生を教員として教育現場に送り出している。

中京大学の建学の精神は、1923年(大正12年)に、学校法人梅村学園の母体である中京商業学校の設立にあたり、創立者の梅村清光が掲げた理念、「学術とスポーツの真剣味の醸成」である。スポーツマンシップという言葉に象徴される闘争の精神として、「ルールを守る」「ベストを尽くす」「チームワークをつくる」「相手に敬意をもつ」の4点が掲げられている。学術を極めると同時に、家庭人として、社会人として、国民としての人のあり方を追究することを求めた精神がここにある。同時に中京大学が求める社会のあり方もここに集約されているのである。

平和で民主的な国家、社会をつくるにあたって教育の果たす役割は極めて大きい。戦後の教員養成の原則、すなわち大学での教員養成を重要な軸とする開放制教員養成の理念に沿って、中京大学が教員養成の役割の一端を担うことは、建学の精神から言うて当然の帰結であった。

教員に求められる資質としては次のような事項をあげることができよう。中京大学の建学の精神の理念と見事に整合性をもつと考えられる。

- ①教育の役割を理解し、教育に対する強い情熱と使命感、さらに、子どもの人格を尊重する態度と、深い愛情をもってしていること。
- ②よりよい教育実践をつくるため、向上心をもち、より高い自分自身を追究する自己研鑽への態度をもってしていること。
- ③学問を尊重する確かな態度をもち、専門領域について訓練を受け、適切な教材準備ができるだけの学術的力量を備えていること。
- ④的確な生徒理解に通じる対人的共感性を備えていると同時に、子どもを取り巻く環境への確かな認識をもってしていること。また生徒集団への支援や管理の力をもってしていること。
- ⑤学校という組織の一員として必要な対人関係能力や役割意識を備え、協力して組織運営に携わる

力をもっていること。

⑥グローバルな視野をもち、国際社会における日本の役割、個人の役割についての認識をもち、コミュニケーション能力を発揮して、地球全体の幸福を志向した社会貢献が可能な力を備えていること。

こうした資質をもつ教員を養成する環境として、上記の建学の精神を掲げ、かつ10学部という多彩な学部を擁する中京大学は望ましい条件を備えていると考えられる。それは単に大学における多様な環境だからである。活発な部活動、サークル活動、さらには日常の会話・交流が、学生の経験の幅を大きく広げ、それはまた教師としてもつべき視野の広さ、視点の多様性の獲得に貢献する。また、各学部の上には大学院も設置されており、専修免許取得まで研鑽を積みたいという学生に対する学習機会も整っている。

中京大学は、少子化の波が打ち寄せている日本の大学では、数少ない学生の学力的側面の向上が見られる大学である。それに伴い、学生同士のかかわり合いも年々質の高いものとなってきている。また、中京大学附属中京大中京高校も同様の傾向があり、それを支える授業実践の工夫が重ねられており、教職をめざす学生にとって貴重な学びの場となっている。

中京大学では、教員養成に関する学内組織の連携も密におこなってきている。基本的には各学部、学科で養成の責任をもつことで、専門領域の充実した教育を提供できている。また、教職に関係する科目については独自の担当者組織をもち、一貫性と統合性のある教育を可能にしている。さらに、各学部と教職関係科目の担当組織は教職センターによって全学的に統括され、実質的かつ具体的な取組の検討を重ね教職教育の不断の調整と改革をおこなっている。この組織が、実態として有効に機能しており、教育環境の変化に対しても、この組織をもって機敏に対応することを可能にしている。また、教職課程を担当する教員の資質および能力においては、十分考慮しており、学問的にも実践的にも学校教育に対して見識をもつ教員を採用している。

目次

項 目	シート	印刷ページ
0. 教職課程履修カルテについて		
(1) 目的		
(2) 作成時期		
(3) 内容		
(4) 作成手順		
(5) 提出時期		
(6) 注意事項		
1. 年次まとめ	①	①(P1)
(1) 2年次までのまとめ		
(2) 3年次のまとめ		
(3) 総まとめ		
2. 教職共通科目・全学共通科目・学部固有科目	②	②(P1)
(1) 教職共通科目の履修状況		
(2) 教職科目以外の全学共通科目・学部固有科目総まとめ		
3. 教職に関する科目	③	③(P1～)
(1) 教職に関する科目の履修状況		
4. 教科に関する科目		
(1) 教科に関する科目の履修状況 中1種(国語)・高1種(国語)	④-1	④-1(P1～)
(2) 教科に関する科目の履修状況 高1種(書道)	④-2	④-2(P1～)
5. 介護等体験・その他活動	⑤	⑤(P1～)
6. 自己評価	⑥	⑥(P1～)
(1) 教員に必要な資質能力についての自己評価		
(2) 教職課程各段階における到達の指標		

教職課程履修カルテについて

【目的】

教職課程を履修している学生ひとりひとりの学習状況をきめ細かく把握するためのものです。

【作成時期】

教職課程履修1年目(2年生)(対象科目は1年生科目もあります)から教員免許取得まで、継続して作成します。

【内容】

「表紙」と「目次」、および「教職課程履修カルテについて」と、実際に入力をする次の6種類のシート内容で構成されています。

- ①「年次まとめ」 ②「教職共通科目・全学共通科目・学部固有科目」 ③「教職に関する科目」
④「教科に関する科目」 ⑤「介護等体験、その他活動」 ⑥「自己評価」

【作成の手順】

- 履修状況は、自身が単位取得した教職に関する科目すべてにおいて入力してください。
 - 自己評価は、各学年終了時点と、教育実習後又は教職実践演習内での提出時に入力をしてください。
 - 教職に関連するボランティア等の活動(⑤その他活動)については、適宜、入力してください。
- ※学部学科、学籍番号、氏名、取得予定免許種などは表紙に入力してください。各ページにコピーされます。
※記入欄が足りない場合には、各自増やして入力を進めてください。

【提出時期】

MaNaBoでの提出は、「3年次4月」と「4年次4月」の2回です。表紙、①～⑥の各シートについて漏れなく入力の上、提出してください。また、『教職実践演習(中・高)』(4年生秋学期)の授業時に、4年次春学期終了分まで記入し、提出指示は各教員に従ってください。



【注意事項】

●定められた期間内に履修カルテの提出がない場合、『教職実践演習(中・高)』の受講ができなくなります。受講できないと卒業と同時に教員免許状を取得することができなくなりますので、十分注意してください。

●履修カルテの記載内容は、『教職実践演習(中・高)』の評価指標にもなります。次の点に気をつけて入力してください。(文章量についても評価の対象です。できるだけ詳細に記載すること。)

<学んだこと・今後の課題>

単なる感想ではなく、その科目で学んだ内容、理解できた内容を明確に記述する(メモのような記述ではいけない。)シラパスのコピーでなく自分の言葉で記述する。自分の課題意識を明確し、さらに深めたいこと、関心をもった事などを記述する。また、理解が不十分だったと思われる点について、その原因を分析し、記述する。

●教職履修カルテの科目名称等は学生便覧をもとに作成しています。

ただしカリキュラム変更により、今後科目名称や履修科目が変更となる場合があります。その場合は、旧科目名のまま進めてください。

中京大学 教職課程履修カルテ①

【①年次まとめ】

<2. 年次まとめ>

学部学科(専攻)	学籍番号	氏名	取得予定免許
文学部 日本文学科	A122000	中京 太郎	・中1種 国語 ・高1種 国語 ・高1種 書道

年次まとめ

記入時期	内容	まとめ
3年4月 提出用	「教職を目指すうえで、深まったことと今後に向けて」を記述してください。 (1・2年生の内容を振り返り、2年生の終わりに記載) 文字数 0	
4年4月 提出用	「教職を目指すうえで、今後自分が解決しなければならない問題、身につけなければならない知識・技能・態度にはどのようなものがあるか」具体的に記述してください。 (1～3年生の内容を振り返り3年生の終わりに記載) 文字数 0	
最終 まとめ	教職への抱負やこれまでの学びがいかに今後の教職人生に役立っていくと思うか、自由に述べて下さい。 (教育実習終了後、又は教職実践演習提出時に記載) 文字数 0	

<3. 教職共通科目の履修状況、全学共通科目、学部固有科目>

学部学科(専攻)	学籍番号	氏名	取得予定免許
文学部 日本文学科	A122000	中京 太郎	・中1種 国語 ・高1種 国語 ・高1種 書道

教職共通科目

免許法施行規則に定める科目区分	本学授業科目	単位	修得学年	担当教員名	成績評価
日本国憲法	日本国憲法	必修2			
外国語 コミュニケーション	科目名(※)	選必1			
	科目名(※)	選必1			
体育	「健康科学、スポーツ科学」より、1科目(2単位)選択必修				
	科目名(※)	選必2			
	指定科目(「健康科学、スポーツ科学」を除く)より、2科目(2単位)選択必修				
	科目名(※)	選必1			
教理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	科目名(※)	選必1			
	科目名(※)	選必2			

※科目名・単位数は、学生便覧や自身の時間割等を確認し、記入してください。

教職科目以外の全学共通科目・学部固有科目全体を通して

3年次提出 (2年終了次)	全学共通科目で学んだことがあなたの教職人生にどのように役立っていくと思いますか？	
	役立つと考えた主な科目名をいくつか記載	どのように役立っていくと思うか記載
4年次提出 (3年終了次)	学部固有科目で学んだことがあなたの教職人生にどのように役立っていくと思いますか？	
	役立つと考えた主な科目名をいくつか記載	どのように役立っていくと思うか記載

<4. 教職に関する科目の履修状況>

学部学科(専攻)	学籍番号	氏名	取得予定免許
文学部 日本文学科	A122000	中京 太郎	・中1種 国語 ・高1種 国語 ・高1種 書道

教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	本学授業科目	単位	修得学年	担当教員名	成績評価	学んだこと・今後の課題
教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門	必修2				
教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原論	必修2				
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	学習・発達論	必修2				
教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育の制度と経営	必修2				
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	必修2				
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	必修1				
道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と実践	必修2				

中京大学 教職課程履修カルテ③
 <4. 教職に関する科目の履修状況>

【③教職に関する科目】

学部学科(専攻)	学籍番号	氏名	取得予定免許
文学部 日本文学科	A122000	中京 太郎	・中1種 国語 ・高1種 国語 ・高1種 書道

教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	本学授業科目	単位	修得学年	担当教員名	成績評価	学んだこと・今後の課題
特別活動の指導法	特別活動の方法	必修1				
総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法	必修1				
教育の方法及び技術	教育方法論	必修1				
情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	情報通信技術の活用	必修1				
各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	国語科教育法 I	中・高国語必修4				
	国語科教育法 II	中国語必修4				
	書道科教育法	高書道必修4				
生徒指導の理論及び方法	生徒指導・	必修1				

③(P2)

<全学部共通>

中京大学 教職課程履修カルテ③
 <4. 教職に関する科目の履修状況>

【③教職に関する科目】

学部学科(専攻)	学籍番号	氏名	取得予定免許
文学部 日本文学科	A122000	中京 太郎	・中1種 国語 ・高1種 国語 ・高1種 書道

教職に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分	本学授業科目	単位	修得学年	担当教員名	成績評価	学んだこと・今後の課題
進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	進路指導の方法	必修1				
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談(カウンセリングを含む)	必修2				
教育実習	教育実習 I (中学校・高校) 教育実習 II (高校のみ)	必修				
教職実践演習	教職実践演習(中・高)	必修2				

③(P3)

<全学部共通>

中京大学 教職課程履修カルテ④-1
 <5. 教科に関する科目の履修状況>

【④-1教科に関する科目】

学部学科(専攻)	学籍番号	氏名	取得予定免許
文学部 日本文学科	A122000	中京 太郎	・中1種 国語 ・高1種 国語 ・高1種 書道

1. 中高(国語)

免許法施行規則に定める科目区分	本学授業科目	単位	修得学年	担当教員名	成績評価	学んだこと・今後の課題
国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	日本語学入門Ⅰ	必修2				
	日本語学入門Ⅱ	必修2				
	国語表現法Ⅰ	必修2				
	国語表現法Ⅱ	必修2				
	日本語文法Ⅰ	必修2				
	日本語文法Ⅱ	必修1				
	日本語音声学Ⅰ	必修2				

④-1(P1)

中京大学 教職課程履修カルテ④-1
 <5. 教科に関する科目の履修状況>

【④-1教科に関する科目】

学部学科(専攻)	学籍番号	氏名	取得予定免許
文学部 日本文学科	A122000	中京 太郎	・中1種 国語 ・高1種 国語 ・高1種 書道

1. 中高(国語)

免許法施行規則に定める科目区分	本学授業科目	単位	修得学年	担当教員名	成績評価	学んだこと・今後の課題
国文学(国文学史を含む。)	日本語音声学Ⅱ	必修2				
	日本文学入門Ⅰ	必修2				
	日本文学入門Ⅱ	必修2				
	日本文学史Ⅰ	必修2				
	日本文学史Ⅱ	必修2				
	中国文学を読むⅠ	必修2				
	中国文学を読むⅡ	必修2				

漢文学

④-1(P2)

<5. 教科に関する科目の履修状況>

学部学科(専攻)	学籍番号	氏名	取得予定免許
文学部 日本文学科	A122000	中京 太郎	・中1種 国語 ・高1種 国語 ・高1種 書道

1. 中高(国語)

免許法施行規則に定める科目区分	本学授業科目	単位	修得学年	担当教員名	成績評価	学んだこと・今後の課題
	中国文学を読むⅢ	必修2				
	中国文学を読むⅣ	必修2				
書道(書写を中心とする。)	書道Ⅰ(中学のみ)	必修2				
上代文学を読むⅠ、上代文学を読むⅡ、中古文学を読むⅠ、中古文学を読むⅡ、中世文学を読むⅠ、中世文学を読むⅡ、近世文学を読むⅠ、近世文学を読むⅡ、近代文学を読むⅠ、近代文学を読むⅡ ※上記10科目より、6科目(12単位)必修						
		選必2				
		選必2				
		選必2				

<5. 教科に関する科目の履修状況>

学部学科(専攻)	学籍番号	氏名	取得予定免許
文学部 日本文学科	A122000	中京 太郎	・中1種 国語 ・高1種 国語 ・高1種 書道

1. 中高(国語)

免許法施行規則に定める科目区分	本学授業科目	単位	修得学年	担当教員名	成績評価	学んだこと・今後の課題
国文学(国文学史を含む。) ※選択科目		選必2				
		選必2				
		選必2				
		選必2				
		選必2				
		選必2				
		選必2				

中京大学 教職課程履修カルテ④-2
 <5. 教科に関する科目の履修状況>

【④-2教科に関する科目】

学部学科(専攻)	学籍番号	氏名	取得予定免許
文学部 日本文学科	A122000	中京 太郎	・中1種 国語 ・高1種 国語 ・高1種 書道

2.高(書道)

免許法施行規則に定める科目区分	本学授業科目	単位	修得学年	担当教員名	成績評価	学んだこと・今後の課題
書道(書写を含む。)	書道Ⅰ	必修2				
	書道Ⅱ	必修2				
	書道Ⅲ	必修2				
	書道Ⅳ	必修2				
	書道Ⅴ	必修2				
書道史	書道史Ⅰ	必修2				
	書道史Ⅱ	必修2				

④-2(P1)

中京大学 教職課程履修カルテ④-2
 <5. 教科に関する科目の履修状況>

【④-2教科に関する科目】

学部学科(専攻)	学籍番号	氏名	取得予定免許
文学部 日本文学科	A122000	中京 太郎	・中1種 国語 ・高1種 国語 ・高1種 書道

2.高(書道)

免許法施行規則に定める科目区分	本学授業科目	単位	修得学年	担当教員名	成績評価	学んだこと・今後の課題
「書論、鑑賞」	書論	必修2				
	書学	必修2				
	日本文学入門Ⅰ	必修2				
	日本文学入門Ⅱ	必修2				
	日本文学史Ⅰ	必修2				
	日本文学史Ⅱ	必修2				
	中国文学を読むⅢ	必修2				

④-2(P2)

中京大学 教職課程履修カルテ④-2
 <5. 教科に関する科目の履修状況>

【④-2教科に関する科目】

学部学科(専攻)	学籍番号	氏名	取得予定免許
文学部 日本文学科	A122000	中京 太郎	・中1種 国語 ・高1種 国語 ・高1種 書道

2.高(書道)

免許法施行規則に定める科目区分	本学授業科目	単位	修得学年	担当教員名	成績評価	学んだこと・今後の課題
国文学、漢文学	中国文学を読むⅣ	必修2				
	上代文学を読むⅠ、上代文学を読むⅡ、中古文学を読むⅠ、中古文学を読むⅡ、中世文学を読むⅠ、中世文学を読むⅡ、近世文学を読むⅠ、近世文学を読むⅡ、近代文学を読むⅠ、近代文学を読むⅡ、中国文学を読むⅠ、中国文学を読むⅡ ※上記12科目より、6科目(12単位)必修					
		選必2				
		選必2				
		選必2				
		選必2				

④-2(P3)

中京大学 教職課程履修カルテ④-2
 <5. 教科に関する科目の履修状況>

【④-2教科に関する科目】

学部学科(専攻)	学籍番号	氏名	取得予定免許
文学部 日本文学科	A122000	中京 太郎	・中1種 国語 ・高1種 国語 ・高1種 書道

2.高(書道)

免許法施行規則に定める科目区分	本学授業科目	単位	修得学年	担当教員名	成績評価	学んだこと・今後の課題
		選必2				
		選必2				
		選必2				
		選必2				
		選必2				
		選必2				
		選必2				

④-2(P4)

中京大学 教職課程履修カルテ④-2
 <5. 教科に関する科目の履修状況>

【④-2教科に関する科目】

学部学科(専攻)	学籍番号	氏名	取得予定免許
文学部 日本文学科	A122000	中京 太郎	・中1種 国語 ・高1種 国語 ・高1種 書道

2.高(書道)

免許法施行規則に定める科目区分	本学授業科目	単位	修得学年	担当教員名	成績評価	学んだこと・今後の課題
		選必2				
		選必2				
		選必2				
		選必2				

④-2(P 5)

中京大学 教職課程履修カルテ⑤
 <6. 介護等体験・その他活動>

【⑤介護等体験・その他活動】

学部学科(専攻)	学籍番号	氏名	取得予定免許
文学部 日本文学科	A122000	中京 太郎	・中1種 国語 ・高1種 国語 ・高1種 書道

その他の教職に関連する活動(介護等体験・支援イベント・ボランティアの参加)等、

※介護等体験に参加した場合(中学校免許取得予定者)は記載してください。

※記入されたイベント等について参加したもののみ記載してください。

活動名称 (施設名・学校名)	活動内容	学んだこと、感じたこと
開始時期(年月日) 終了時期(年月日)		
【中学校免許取得要件:介護等体験(社会福祉施設および特別支援学校)参加】		
社会福祉施設5日間 ()		
特別支援学校2日間 (学校)		
活動名称 (施設名・学校名・活動場所)	活動内容	学んだこと、感じたこと
開始時期(年月日) 終了時期(年月日)		
例: 放課後こども教室 (〇〇市立〇〇小学校) (2022/5/20) (2023/2/20)	ボランティア活動 児童の遊び・スポーツ・学習・読書などの見守りや補助などの活動	〇〇している児童の対応など……
2年次筆記試験対策講座		
3年次筆記試験対策講座		
4年次筆記試験対策講座		

⑤(P 1)

<全学部共通>

中京大学 教職課程履修カルテ⑤

【⑤介護等体験・その他活動】

<6. 介護等体験・その他活動>

学部学科(専攻)	学籍番号	氏名	取得予定免許
文学部 日本文学科	A122000	中京 太郎	・中1種 国語 ・高1種 国語 ・高1種 書道

その他の教職に関連する活動(介護等体験・支援イベント・ボランティアの参加)等、

※介護等体験に参加した場合(中学校免許取得予定者)は記載してください。

※記入されたイベント等について参加したもののみ記載してください。

活動名称 (施設名・学校名) 開始時期(年月日) 終了時期(年月日)	活動内容	学んだこと、感じたこと
3年次グループ指導会		
4年次グループ指導会		
3年次小論文(自己PR文) 個別添削指導		
4年次小論文個別添削指導		
教員採用試験特別学習会 (豊田キャンパス)	本学卒業生による集団面接・個人面接等人物評価試験の対策講習会。	
名古屋市教員採用試験特別学習会 (名古屋キャンパス)	名古屋市教員採用試験受験者対象の本学卒業生による集団面接・個人面接等人物評価試験の対策講習会。	

⑤(P 2)

<全学部共通>

中京大学 教職課程履修カルテ⑤

【⑤介護等体験・その他活動】

<6. 介護等体験・その他活動>

学部学科(専攻)	学籍番号	氏名	取得予定免許
文学部 日本文学科	A122000	中京 太郎	・中1種 国語 ・高1種 国語 ・高1種 書道

その他の教職に関連する活動(介護等体験・支援イベント・ボランティアの参加)等、

※介護等体験に参加した場合(中学校免許取得予定者)は記載してください。

※記入されたイベント等について参加したもののみ記載してください。

活動名称 (施設名・学校名) 開始時期(年月日) 終了時期(年月日)	活動内容	学んだこと、感じたこと

⑤(P 3)

<全学部共通>

中京大学 教職課程履修カルテ⑥
 <7. 自己評価シート・総まとめ>

【⑥自己評価】

学部学科(専攻)	学籍番号	氏名	取得予定免許 ・中1種 国語 ・高1種 国語 ・高1種 書道
文学部 日本文学科	A122000	中京 太郎	

教員に必要な資質能力に
 についての自己評価

【自己評価値】 1:全くできていない 2:あまりできていない 3:ふつう 4:まあまあよくできている 5:とてもよくできている

必要な資質能力の指標			自己評価		
項目	指標	2年 終了時	3年 終了時	教育実習 終了後又は 教職実践演習 提出時	
学校教育に についての理解	教職の意義	教職の意義や教員の役割、職務内容、子どもに対する責務を理解していますか。			
	教育の理念・教育史・思想の理解	教育の理念、教育に関する歴史・思想についての基礎理論・知識を習得していますか。			
	学校教育の社会的・制度的・経営的理解	学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論・知識を習得していますか。			
子どもに についての理解	心理・発達論的な子ども理解	子ども理解のために必要な心理・発達論の基礎知識を習得していますか。			
	子どもの状況に応じた対応	いじめ、不登校、特別支援教育などについて、個々の子どもの特性や状況に応じた対応の方法を理解していますか。			
他者との協力	保護者・地域との連携協力	保護者や地域との連携・協力の重要性を理解していますか。			
	協力授業の実施	他者と協力して授業を企画・運営・展開することができますか。			
コミュニケーション	子どもの発達段階に対応したコミュニケーション	子どもたちの発達段階を考慮して、適切に接することができますか。			
	公平・受容的態度	子どもの声を真摯に受け止め、公平で受容的な態度で接することができますか。			
中学校1種(国語)	これまで履修した中学(国語)の科目の意義と内容について理解していますか。				
	教科書(中学・国語)のねらいと内容を十分理解していますか。子どもからの質問に的確に応えることができますか。				

⑥(P1)

中京大学 教職課程履修カルテ⑥
 <7. 自己評価シート・総まとめ>

【⑥自己評価】

学部学科(専攻)	学籍番号	氏名	取得予定免許 ・中1種 国語 ・高1種 国語 ・高1種 書道
文学部 日本文学科	A122000	中京 太郎	

教員に必要な資質能力に
 についての自己評価

【自己評価値】 1:全くできていない 2:あまりできていない 3:ふつう 4:まあまあよくできている 5:とてもよくできている

必要な資質能力の指標			自己評価		
項目	指標	2年 終了時	3年 終了時	教育実習 終了後又は 教職実践演習 提出時	
教科・教育課程に 関する基礎知識・ 技能	高等学校1種(国語)	これまで履修した高校(国語)の科目の意義と内容について理解していますか。 教科書(高校・国語)のねらいと内容を十分理解していますか。子どもからの質問に的確に応えることができますか。			
	高等学校1種(書道)	これまで履修した高校(書道)の科目の意義と内容について理解していますか。 教科書(高校・書道)のねらいと内容を十分理解していますか。子どもからの質問に的確に応えることができますか。			
教科・教育課程に 関する基礎知識・ 技能	学習指導要領(中学校)	中学校の学習指導要領の内容を理解していますか。			
	学習指導要領(高校)	高校の学習指導要領の内容を理解していますか。			
	教育課程の構成に関する基礎理論・知識	教育課程の編成に関する基礎理論・知識を習得していますか。			
	道徳教育・特別活動	道徳教育・特別活動の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得していますか。			
	総合的な学習の時間	「総合的な学習の時間」の指導法や内容に関する基礎理論・知識を習得していますか。			
	情報機器の活用	情報教育機器の活用に係る基礎理論・知識を習得していますか。			
	学習指導法	学習指導法に係る基礎理論・知識を習得していますか。			

⑥(P2)

<7. 自己評価シート・総まとめ>

学部学科(専攻)	学籍番号	氏名	取得予定免許 ・中1種 国語 ・高1種 国語 ・高1種 書道
文学部 日本文学科	A122000	中京 太郎	

教員に必要な資質能力についての自己評価

【自己評価値】 1:全くできていない 2:あまりできていない 3:ふつう 4:まあまあよくできている 5:とてもよくできている

必要な資質能力の指標			自己評価		
項目	指標	2年 終了時	3年 終了時	教育実習 終了後又は 教職実践演習 提出時	
教育実践	教材分析能力	一つひとつの教材を分析し、自分なりに内容を編成できますか。			
	授業構想力	教材研究を生かした授業を構想し、子どもの反応を想定した指導案をまとめることができますか。			
	教材開発力	教科書にある題材や単元などの趣旨に応じた教材・資料を開発・作成することができますか。			
	授業展開力	子どもの主体的な学習参加を促す授業を進めることができますか。			
	表現技術	板書や発問、的確な話し方など授業を行う上での基本的な表現の技術を身に付けていますか。			
	学級経営力	学級経営案を作成することができますか。			
教育時事	教育時事問題	いじめ、不登校、特別支援教育などの学校教育に関する新たな課題に関心を持ち、自分なりに意見を持つことができますか。			
文学部	文学部の学びの応用	「日本語」及び「国語」の将来について自分の考えをまとめ、「国語」を大切にするためにどうすればよいか提案できますか。			

「教職フェスタ」で教職課程履修者らが自身の経験や教職の魅力を紹介！



教職フェスタが11月25日と26日、名古屋キャンパスのガレリアで開催されました。教職フェスタは教職課程履修者が実行委員となり、教職課程の履修を考えている1年生に向けて、現履修者たちが教職にまつわる様々な情報や活動を紹介し、学生目線での教職課程のリアルな魅力や内容を伝えることを目的としています。

イベント当日は、現履修者たちの経験や学びを共有するプレゼンテーションが行われました。また、教職に関する個別相談を受けられるブースも設けられ、参加者は現履修者や教職課程の教員から具体的なアドバイスを受けることができました。

25日には、3組の教職履修者がプレゼンテーションを実施。



土肥彩夏さん（文学部2年）が「教職課程について」のプレゼンテーションを行い、教職課程の教員や授業内容を紹介しました。

横井詩音さん（国際学部3年）は「Mie-英語授業PR大使」についてプレゼンテーションを行い、PR大使としての具体的な活動内容や活動の様子を発表しました。

古本圭佑さん（総合政策学部3年）と加藤愛惟さん（法学部2年）は2023年度のチャレンジ奨励金プロジェクトで採択された「イギリス ケンブリッジ研修」についてプレゼンテーションを行い、英語教育ではなく、教育について学ぶための海外研修について、全日程を振り返りながら具体的に紹介しました。

26日には、1日目と同様「教職課程について」に加え、今年度のチャレンジ奨励金で採択された「文学部アクティブラーニング研究会」と「教育実習」のプレゼンテーションが行われました。



教職フェスタは、現役履修者たちが自身の経験を共有することで、参加者らに教職課程に関する新たな視点を提供し、将来の進路について考える良い機会となりました。

取材・文：学生広報スタッフ「ライト」

横井詩音（国際学部3年）

2024/11/28

中京大学から教育現場へご提供できるコンテンツ一覧(2024年度版)

	受講対象	分野	内容	学部	担当教員	実施可能時期
児童・生徒	小学生向け	体育系	なわとび体験学習 《名古屋土曜学習プログラム 1月実施》	スポーツ科学部	教授 野田智洋 (体操競技部部長)	応相談
	小学生向け	体育系	作って遊ぼう!投運動 《名古屋土曜学習プログラム 2月実施》	スポーツ科学部	助教 加納 裕久	応相談
	小学校(低学年)	体育系	多様な運動体験教室	スポーツ科学部	教授 中野貴博	応相談
	小学生・中学生向け	体育系	体育実技指導【ラグビー】	スポーツ科学部	教授 中本光彦 (ラグビー部部長・監督)	応相談
	小学生・中学生向け	体育系	体育実技指導【水泳】	スポーツ科学部	准教授 草薙健太 (水泳部監督)	応相談
	小学生・中学生向け	体育系	体育実技指導【ハンドボール】	スポーツ科学部	准教授 船木浩斗 (男女ハンドボール部監督)	応相談
	小学生・中学生向け	体育系	体育実技指導【サッカー】	スポーツ科学部	教授 大家利之 (女子サッカー部監督)	応相談
	小学生・中学生向け	体育系	体育実技指導【ソフトボール】	スポーツ科学部	准教授 二瓶雄樹 (ソフトボール部部長・女子部監督)	応相談
	小学生・中学生向け	体育系	体育実技指導【柔道】	スポーツ科学部	准教授 三宅恵介 (柔道部部長・監督)	応相談
	小学生・中学生向け	体育系	体育実技指導【バスケットボール】	スポーツ科学部	教授 松藤貴秋 (バスケットボール部部長・監督)	応相談
	小学生・中学生向け	体育系	体育実技指導【ダンス】	スポーツ科学部	准教授 和光理奈	応相談
	小学校(中～高学年)	心理系	私を表わす おと・いろ・かたち	心理学部	教授 馬場史津	応相談
	小学校高学年、中学生向け	人文系	多文化共生社会と多文化教育について考える	教養教育研究院	准教授 アルファロ・フランシスコ	2月
	小学校高学年、中学生向け	教育系	友達とのつき合い方(いじめ、アサーション、相談援助などの観点から講演する)	教養教育研究院	准教授 小川翔大	応相談
	小学生高学年、中学、高校生向け	人文系	日本漫画・アニメの外国語翻訳版を楽しもう(人気作品の英語翻訳版を題材に、外国語を学ぶ楽しさを体験させる。なお、児童生徒の学習段階に合わせた教材を準備する)	国際学部	教授 明木茂夫	応相談
中学生・高校生向け	社会系	契約の基礎知識、消費者保護のしくみ	法学部	教授 杉島由美子	応相談	
中学生・高校生向け	人文系	日系イギリス人作家カズオ・イシグロの作品から入る英語文学の世界および同時代の社会問題	教養教育研究院	教授 樽正行	応相談	
教員・保護者	教育委員会(教員)向け	保健系	熱中症予防について	スポーツ科学部	教授 松本孝朗	応相談
	教員・中学生向け	人文系	社会科または道徳科における「ホロコースト」や杉原千畝について学ばせる教材や指導法を提供する。 (ポーランドやリトアニアを訪問した際の写真、米国のホロコースト教育を行うNPOの教材など)	教養教育研究院	教授 原口友輝	応相談
	教員・保護者・高校生向け	人文系	判断力の教育方法(原発の是非に関する総合的判断力教育、ワクチン接種の是非判断のためのリスク教育)	教養教育研究院	教授 楠美順理	応相談
	教員・保護者向け	人文系	体罰予防・防止に向けた研修(体罰の発生メカニズムや子どもの発達に与える影響について、心理学的観点から解説します)	教養教育研究院	准教授 小川翔大	応相談
	教員向け	人文系	地図帳中国地名カタカナ表記の研究(教科書や地図帳の中国地名はなぜ中国語読みカタカナとなっているのか、授業や受験指導ではどう扱えばよいのかなどについて考える)	国際学部	教授 明木茂夫	応相談
	教員向け	心理系	青少年の自殺予防	心理学部	教授 川島大輔	応相談
	教員向け	社会系	契約の基礎知識、消費者法の基礎知識	法学部	教授 杉島由美子	応相談
	教員・保護者向け	社会系	(1)生命倫理(バイオエシックス)と法(「いのちの教育」など) (2)障害児・者の福祉と法律	法学部	教授 保条成宏	応相談

●上記はそれぞれ40分～90分の講演時間、受講人数10人～1クラス程度を想定していますが、ご相談いただければ可能な範囲で調整させていただきます。

中京大学の学生へご講演いただきたい内容一覧(2024年度版)

開講学部	授業科目名 〈科目担当〉	実施時期	希望講演内容
スポーツ科	体育科教育法Ⅱ 〈柰子耕一〉	10~12月	●保健体育教員としての資質能力の向上についての講演「学校現場を知る」
教養教育研究院	教職実践演習(中・高) 〈教職グループ〉	12月土曜日	●教師への入り口という位置づけの講演(八事キャンパス) 「教師の魅力、学校現場から見えてくる子どもや社会の状況、学校現場の取り組みについて」(1時間程度)
教養教育研究院	教職実践演習(中・高) 〈教職グループ〉	12月土曜日	●教師への入り口という位置づけの講演(豊田キャンパス) 「教師の魅力、学校現場から見えてくる子どもや社会の状況、学校現場の取り組みについて」(1時間程度)

2024年度 名古屋市・豊田市教育委員会連携授業実績

中京大学から教育委員会に提供

委員会名	学校名	対象	内容	日程	学部	担当	備考
名古屋市教育委員会	名古屋市立小幡北小学校	小学生	体育実技指導（ダンス）	2024年10月2日	スポーツ科学部	和光先生	
名古屋市教育委員会	名古屋市立平和小学校	小学生	なわとび体験学習	2025年1月18日	スポーツ科学部	野田先生	土曜学習 プログラム
名古屋市教育委員会	名古屋市立鶴舞小学校	小学生	作って遊ぼう！投運動	2025年2月15日	スポーツ科学部	加納先生	土曜学習 プログラム
名古屋市教育委員会	名古屋市立西城小学校	小学生	多様な運動体験教室	2025年3月4日	スポーツ科学部	中野先生	
豊田市教育委員会	豊田市立浄水中学校	小学生	作って遊ぼう！投運動	2024年7月17日	スポーツ科学部	加納先生	
豊田市教育委員会	豊田市立堤小学校	小学生	作って遊ぼう！投運動	2025年2月10日	スポーツ科学部	加納先生	
豊田市教育委員会	豊田市立西保見小学校	小学生	多様な運動体験教室	2024年9月26日	スポーツ科学部	中野先生	
豊田市教育委員会	豊田市立新盛小学校	小学生	多様な運動体験教室	2024年11月7日	スポーツ科学部	中野先生	
豊田市教育委員会	豊田市立若林東小学校	小学生	多様な運動体験教室	2025年2月10日	スポーツ科学部	中野先生	
豊田市教育委員会	豊田市立秋野小学校	小学生	なわとび体験学習	2024年11月21日	スポーツ科学部	野田先生	
豊田市教育委員会	豊田市立加納小学校	小学生	なわとび体験学習	2024年12月5日	スポーツ科学部	野田先生	
豊田市教育委員会	豊田市立加納小学校	小学生	なわとび体験学習	2024年12月12日	スポーツ科学部	野田先生	
豊田市教育委員会	豊田市立大畑小学校	小学生	なわとび体験学習	2024年12月19日	スポーツ科学部	野田先生	
豊田市教育委員会	豊田市立堤小学校	小学生	なわとび体験学習	2025年1月16日	スポーツ科学部	野田先生	
豊田市教育委員会	豊田市立朝日小学校	小学生	体育実技指導（柔道）	2024年7月10日	スポーツ科学部	三宅先生	
豊田市教育委員会	豊田市立上鷹見小学校	小学生	体育実技指導（ハンドボール）	2024年10月24日	スポーツ科学部	船木先生	
豊田市教育委員会	豊田市立堤小学校	小学生	体育実技指導（ラグビー）	2024年11月20日	スポーツ科学部	中本先生	
豊田市教育委員会	豊田市立堤小学校	小学生	体育実技指導（ダンス）	2025年1月31日	スポーツ科学部	和光先生	
豊田市教育委員会	豊田市立西保見小学校	小学生	友達とのつき合い方	2025年2月13日	教養教育研究院	小川先生	
豊田市教育委員会	豊田市立新盛小学校	小学生	体育実技指導（ダンス）	2025年2月18日	スポーツ科学部	和光先生	
豊田市教育委員会	豊田市立稲武中学校	小学生	体育実技指導（ダンス）	2025年2月25日	スポーツ科学部	和光先生	

教育委員会から中京大学に提供

委員会名	講演者	内容	対象	日程	学部	備考
豊田市教育委員会	田中 佐知 氏	教職実践演習 講演会	豊田キャンパス教職履修者4年生	2024年12月7日	教養教育研究院	対面形式
名古屋市教育委員会	一ノ瀬 喜崇 氏	教職実践演習 講演会	名古屋キャンパス教職履修者4年生	2024年12月14日	教養教育研究院	対面形式

オンライン

高校生とともに 教師の魅力を考えるフェスタ 2024

～学校の先生になるって、どういうこと?～

主催 愛知教員養成コンソーシアム連絡協議会

後援 愛知県教育委員会 名古屋市教育委員会

公開期間 令和6年12月4日(水)

～令和7年3月7日(金)



下記URLまたはQRからアクセスしてください。

<https://www.aichi-edu.ac.jp/renkei/univ/committee.html>

【プログラム】

基調講演

「先生の魅力 再発見！」

講師

蒲郡市教育委員会 教育長

壁谷 幹朗 氏

現役学生メッセージ

「こんな先生になりたい」

発表者(教員採用試験合格4年生)：

参加大学から9名の現役学生がショートプレゼンテーションにて発表します。

若手教員メッセージ

「先生になってみてわかったこと」

参加大学の卒業生で、教員として採用され、勤務日数2年目から5年目の小、中、高の教員がショートプレゼンテーションにて発表します。

参加大学の特色について

愛知教育大学 愛知県立大学 愛知学泉大学
愛知東邦大学 愛知みずほ大学 桜花学園大学
岡崎女子大学 金城学院大学 椋山女学園大学
中京大学 東海学園大学 同朋大学
名古屋葵大学(名古屋女子大学)
名古屋外国語大学 名古屋学芸大学
名古屋経済大学

参加
大学

愛知教育大学 愛知県立大学 愛知学泉大学 愛知東邦大学 愛知みずほ大学 桜花学園大学
岡崎女子大学 金城学院大学 至学館大学 椋山女学園大学 中京大学 東海学園大学 同朋大学
名古屋葵大学(名古屋女子大学) 名古屋外国語大学 名古屋学芸大学 名古屋経済大学

連絡先：愛知教育大学 秘書室 TEL.0566-26-2737・2127